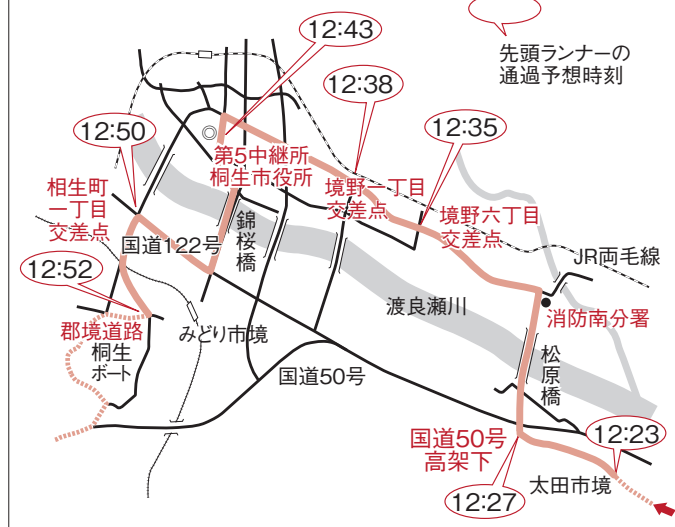


第61回全日本実業団対抗駅伝競走大会 ニューイヤー駅伝2017 in ぐんま



市内通過コースと予想時刻



通過予想時刻とコース

今大会は平成29年1月1日（元日）、午前9時15分に群馬県庁前をスタートし、選手は、午後0時23分頃に県道太田・桐生線から広沢町へ入ります。

新春恒例のニューイヤー駅伝が来年の元日も桐生市にやってくる。37チームの日本を代表するトップランナーたちが、熱い戦いを繰り広げますので、選手の皆さんに声援をお願いします。

問い合わせは、スポーツ体育課スポーツ振興係（☎内線657・658）へ。

中継所周辺でイベントを行います

今回も「元氣な桐生」を全国にアピールするため、市役所南側、イベント広場で歓迎行事、お汁粉・豚汁・飲み物などのサービス、桐生八木節連絡協議会の協力による八木節の実演を行います。

駐車場は、市民文化会館二層式駐車場のほか、市役所周辺の職員駐車場などを係員の指示に従って御利用ください。

中継所で次の選手にたすきを渡した後、錦桜橋から国道122号を北上し、相生町一丁目交差点を左折し、みどり市に入るのが午後0時52分頃と予想されます。

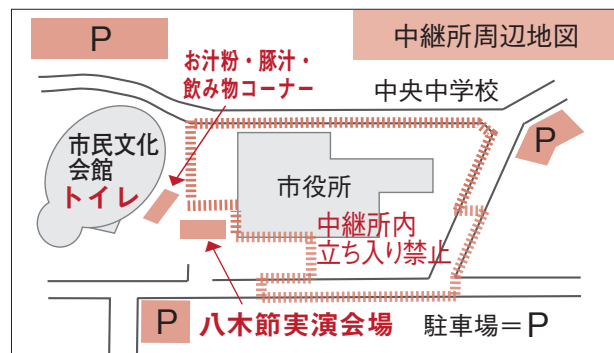
市内およそ11キロメートルを30分ほどで駆け抜ける選手のスピード感あふれる走りを是非、御覧ください。

なお、コースとなる車道内及び歩道橋は時間規制で立ち入り禁止になります。警察官や係員の指示に従って御協力をお願いします。

おりひめバスは一部運休します

ニューイヤー駅伝開催に伴う交通規制のため、おりひめバスは、一部運休になります。詳しいことは、おりひめバス車内及び市ホームページなどでお知らせします。

問い合わせは、広域調整室 広域調整係（☎内線387）又は桐生朝日自動車株式会社（☎542420）へ。



中継所となる市役所前の道路や市役所構内は立ち入り禁止となります。

トイレは、市民文化会館内を開放します。

まちの話題



平成28年度「少年の主張」桐生市優秀者発表会

11月5日（土）、中央公民館市民ホールで開催された第30回桐生市「明るい家庭・地域づくり運動」推進市民大会の中で、平成28年度「少年の主張」桐生市優秀者発表会が行われました。

「少年の主張」は、少年が日頃の生活を通して感じていることや考えていることを発表することにより社会の一員としての自覚を高めるとともに、少年に対する県民の理解や認識を深め、青少年健全育成活動の一助として実施しています。

発表した4人は、「少年の主張」東毛地区大会の桐生市地区代表で、うちノブラック花蓮さんは東毛地区代表の1人となって、群馬県大会で優秀賞を受賞しています。

コミュニケーション、文化、伝統、ふるさとなどに主題をおいた広い視野と柔軟な発想を持った4人の発表は、大人以上に地域のことを認識した豊かな感性があふれるものでした。「子供から桐生のことを教えてもらい、桐生の良さを再認識しました」と感想を話す人もいて、今後の地域づくりの参考になる有意義な発表会でした。

4人の発表要旨などは、下の表のとおりです。また、全文は市ホームページに掲載のほか、青年の家、各公民館、市役所2階の情報政策課で御覧いただけます。



主題・氏名・学校・学年	要旨	※掲載は当日の発表順です。
ふるさとを歩いて… 渡辺蘭さん 樹徳中学校3年	毎月第一土曜日の骨董市。昔懐かしいおだんごの味。機を織る音の聞こえるのこぎり屋根。自分のふるさとを歩いて見えるもの。ふるさとを歩いて分かること。ゆっくりとした時間の中で、ふるさとを歩いて、そして…。	
「井の中の蛙」 山田直毅さん 清流中学校3年	普段の生活では、そんな消極的でない僕。しかし、「科学の甲子園ジュニア全国大会」の時、周囲とうまく対話できなかった。未知の世界に尻込みせず、多くの人とコミュニケーションを積極的にとる必要性を実感した。	
命をいただく私たち ノブラック花蓮さん 桐生大学附属中学校3年	私達は食べ物に対して感謝の気持ちを持って食べるべきだ。日本人が言う「いただきます」には、命の重さを知り、動植物に対する感謝と尊敬の念が含まれている。これこそ日本が世界に誇るべき文化である。	
進化する伝統 川田芽生さん 清流中学校3年	日本文化の素晴らしさを多くの外国人が絶賛している。私たちの住む桐生の「桐生織」もその一つであり、今もその良さを伝えようと地元の方々が努力している。この温故知新の精神は私自身が成長することにもつながる。	

第16回の桐生市子ども会「子ども議会」が先日開催され、出席しました。

17人の子ども議員の皆さんから、桐生市の自然、歴史、伝統文化、環境、福祉など、様々な分野にわたる提案を聴かせていただきました。

皆さんが、桐生市のことを一生懸命勉強し、桐生市の将来について考えていることがよく分かり、大変感心しました。また、桐生市のことを大好きであるという気持ちが伝わってきて、とてもうれしく、心強く思いました。私も一生懸命答弁しました。

自分の住むまちに自信と誇りを持つことによって、桐生市は更に元気になると思っています。

当日、子ども議員として参加された皆さんには、この子ども議会を一つのきっかけにして、これから大きく伸びやかに成長して欲しいと思います。

